

各 位

三重県病害虫防除所

令和 8 年度病害虫発生予報第 2 号

このことについて、下記のとおり発表します。

担当 三重県病害虫防除所

TEL 0598-42-6365 FAX 0598-42-7568

E-mail byogai@pref.mie.lg.jp

I 予報の概要

農作物名	病 害 虫 名	発生量 (平年比)	農作物名	病 害 虫 名	発生量 (平年比)
イネ	葉いもち	平年並 ※発生時期 やや早	チャ	炭疽病	平年並
	イネクロカメムシ	やや少		もち病	平年並
	イネミズゾウムシ	平年並 ※発生時期 やや早		カンザワハダニ	やや少
カンキツ	そうか病	やや多		チャノホソガ	やや少
	黒点病	平年並		チャノミドリヒメヨコバイ	平年並
	かいよう病	平年並		チャノキイロアザミウマ	平年並
	ミカンハダニ	平年並	イチゴ	うどんこ病	平年並
	チャノキイロアザミウマ	平年並		炭疽病	やや多
ナシ	黒星病	やや多	ネギ	ネギコガ	平年並
	ハダニ類	少	野菜共通	コナガ	やや多
ブドウ	べと病	平年並			
果樹共通	カメムシ類	多			

II 予報

巡回調査：5月7日から5月13日

イネ

1 葉いもち

(1) 予報内容 発生量：平年並

発生時期：やや早

(2) 予報の根拠

- 1) 巡回調査ほ場では、置き苗での発生率 0%（平年 0%）と平年並、本田での発生ほ場率 0%（平年 0%）と平年並（±）
- 2) 一般ほ場では、発生量は平年並（±）
- 3) 1 か月予報によると、気温は高く、降水量は多い予想（+）
- 4) 発生時期は気象条件を考慮して、やや早と予想されます。また、現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き発生量は平年並と予想されます。

(3) 防除対策

- 1) 補植用置苗は伝染源となるので、速やかに除去し、枯死させてください。
- 2) 本田粒剤による予防は、初発前に行ってください。
- 3) いもち病発生予測支援システム（ブラスタム）において、感染好適条件の現れた 7 日から 10 日後に初発が予測されます。
- 4) ブラスタムの最新情報は、病害虫防除所ホームページで随時更新しています。

2 イネクロカメムシ

(1) 予報内容 発生量：やや少

(2) 予報の根拠

- 1) 昨年 8 月第 2 半旬から 10 月第 6 半旬の予察灯（水田・松阪市）の誘殺数は 5 頭（平年 11.7 頭）と少、予察灯（畑・松阪市）の誘殺数は 455 頭（平年 368 頭）とやや多（±）
- 2) 本年 4 月第 4 半旬から 5 月第 3 半旬の予察灯（水田・松阪市）の誘殺数は 0 頭（平年 0.4 頭）と少、予察灯（畑・松阪市）の誘殺数は 0 頭（平年 2.0 頭）と少（-）
- 3) 本年の予察灯（水田・松阪市）の初飛来は 5 月 16 日（平年 5 月 16 日）と平年並（±）
- 4) 予察灯の結果を考慮して、発生量はやや少と予想されます。

(3) 防除対策

- 1) 常発地で薬剤散布する場合は、越冬成虫の発生量がピークになる 6 月下旬に実施してください。

3 イネミズゾウムシ

(1) 予報内容 発生量：平年並

発生時期：やや早

(2) 予報の根拠

- 1) 4 月第 4 半旬から 5 月第 3 半旬の予察灯（水田・松阪市）では、越冬成虫の初飛来日は 4 月 11 日（平年 4 月 25 日）と早、誘殺数は 4 頭（平年 35.7 頭）と少（-）

- 2) 巡回調査ほ場では、発生ほ場率 50.5% (平年 35.3%) と多、被害株率 20.4% (平年 10.2%) と多、株当たり虫数 0.04 頭 (平年 0.02 頭) と多 (+)
- 3) 一般ほ場では、発生量は少 (－)
- 4) 幼虫の発生時期は予察灯の結果を考慮して、やや早と予想されます。また、現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き発生量は平年並と予想されます。

(3)防除対策

- 1) 株当たり 0.5 頭以上の成虫が発生していれば、防除してください。

カンキツ

1 そうか病

- (1) 予報内容 発生量：やや多

- (2) 予報の根拠

- 1) 巡回調査ほ場では、旧葉発病度 0.03 (平年 0.01) と多、新葉発病度 0 (平年 0.03) と少 (±)
- 2) 県予察ほ(御浜町、5 月 15 日、興津早生、無防除)では、新葉発病率 98.0% (平年 76.2%) と多 (+)
- 3) 一般ほ場では、発生量はやや少からやや多(概してやや多) (+)
- 4) 1 か月予報によると、気温は高く、降水量は多い予想 (+)
- 5) 現状の発生量はやや多と考えられ、引き続き発生量はやや多と予想されます。

- (3) 防除対策

- 1) 梅雨明けまで幼果に感染します。
- 2) 6 月以降は新芽や幼果の病斑から二次感染するので、予防散布が重要です。

2 黒点病

- (1) 予報内容 発生量：平年並

- (2) 予報の根拠

- 1) 巡回調査ほ場では、昨年 10 月の果実発病度は 0.49 (平年 6.3) と少 (－)
- 2) 県予察ほ(御浜町、興津早生、無防除)では、昨年 10 月の果実発病度は 47.1 (平年 81.4) と少 (－)
- 3) 一般ほ場では、昨年 10 月の発生量は平年並 (±)
- 4) 1 か月予報によると、気温は高く、降水量は多い予想 (+)
- 5) 今後の気象条件が黒点病の生育に好適な条件であることを考慮して、発生量は平年並と予想されます。

- (3) 防除対策

- 1) 生理落果盛期から後期に予防散布を実施してください。
- 2) 上記薬剤散布後、積算で 200mm 以上の降雨があったら次の防除を実施してください。
- 3) 枯枝が伝染源です。梅雨時期の枯枝発生に注意し、樹冠内やほ場内の枯枝を除去してください。

3 かいよう病

- (1) 予報内容 発生量：平年並

- (2) 予報の根拠

- 1) 巡回調査ほ場では、旧葉発病度は温州みかんでは 0 (平年 0.03) とやや少、中晩柑類では 0.70

(平年 1.40) と少 (－)

2) 一般ほ場では、発生量はやや少から平年並 (概して平年並) (±)

3) 1 か月予報によると、気温は高く、降水量は多い予想 (+)

4) 現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き発生量は平年並と予想されます。

(3) 防除対策

1) 旧葉で越冬病斑が見られるほ場では、感染を助長する降雨等の気象条件に注意し、ボルドー剤による予防防除を実施してください。

2) 越冬病斑が見られないほ場でも、本病に弱い品種 (カラ、セミノールなど) では、幼果への感染防止対策として予防散布を実施してください。

3) 中晩柑類では、梅雨期頃から 10 月中下旬頃まで果実への感染が起こります。

4 ミカンハダニ

(1) 予報内容 発生量：平年並

(2) 予報の根拠

1) 巡回調査ほ場では、旧葉寄生率 0 % (平年 1.6 %) と少、寄生頭数 0.00 頭/葉 (平年 0.05 頭/葉) と少 (－)

2) 県予察ほ (御浜町、5 月 15 日、興津早生) では、寄生頭数は、無防除区 2.2 頭/100 葉 (平年 23.7) と少、慣行防除区 3.3 頭/100 葉 (平年 1.2 頭) とやや多 (±)

3) 一般ほ場では、発生量は少からやや少 (概してやや少) (－)

4) 1 か月予報によると、気温は高く、降水量は多い予想 (+)

5) 現状の発生量はやや少と考えられ、今後の気象条件を考慮して、発生量は平年並と予想されます。

(3) 防除対策

1) 梅雨期は薬剤散布のタイミングが取りにくい時期です。マシン油乳剤等を有効に利用する散布を計画して下さい。

2) 発生密度が高いほ場では、散布ムラのないように十分に薬剤散布してください。

3) 薬剤抵抗性発達を回避するため、同一系統薬剤使用は年 1 回までとしてください。

5 チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量：平年並

(2) 予報の根拠

1) 一般ほ場では、発生量は平年並 (±)

2) 1 か月予報によると、気温は高く、降水量は多い予想 (+)

3) 現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き発生量は平年並と予想されます。

(3) 防除対策

1) 例年被害の多いほ場では 6 月上旬から中旬に防除し、その後は 30 日間隔を目安に次回の防除を行ってください。

ナシ

1 黒星病

(1) 予報内容 発生量：やや多

(2) 予報の根拠

- 1) 巡回調査ほ場では、発病葉率 0%（平年 0.2%）と少 （－）
- 2) 一般ほ場では、発生量は平年並 （±）
- 3) 1 か月予報によると、気温は高く、降水量は多い予想 （＋）
- 4) 現状の発生量は平年並と考えられ、今後の気象条件を考慮して、発生量はやや多と予想されます。

(3) 防除対策

- 1) ほ場内をよく観察し、発病が認められる場合は速やかに防除を実施してください。
- 2) 発病葉は発見次第取り除き、ほ場外へ持ち出して処分してください。
- 3) 薬剤抵抗性発達を回避するため、同一系統薬剤の連用を避けてください。

2 ハダニ類

(1) 予報内容 発生量：少

(2) 予報の根拠

- 1) 巡回調査ほ場では、寄生葉率 0%（平年 0%）と平年並 （±）
- 2) 一般ほ場では、発生量は少 （－）
- 3) 1 か月予報によると、気温は高く、降水量は多い予想 （＋）
- 4) 現状の発生量は少と考えられ、引き続き発生量は少と予想されます。

(3) 防除対策

- 1) 防除の目安は成虫の 1 葉当たり寄生頭数が 1 頭以上の時です。
- 2) 薬剤抵抗性発達を回避するため、同一系統薬剤使用は年 1 回までとしてください。

ブドウ

1 ベと病

(1) 予報内容 発生量：平年並

(2) 予報の根拠

- 1) 巡回調査ほ場では、発病葉率は 0%（平年 0%）と平年並 （±）
- 2) 一般ほ場では、発生量は少 （－）
- 3) 1 か月予報によると、気温は高く、降水量は多い予想 （＋）
- 4) 現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き発生量は平年並と予想されます。

(3) 防除対策

- 1) 雨が連続すると急激に発生が広がります。降雨が予想される時は、早めに予防散布を行ってください。
- 2) 葉裏をよく観察し、病斑を認めたら直ちに防除を実施してください。
- 3) 被害葉、被害果穂は発見次第取り除き、ほ場外に持ち出し処分してください。

果樹共通

1 果樹カメムシ類

(1) 予報内容 発生量：多

(2) 予報の根拠

- 1) 4 月第 4 半旬から 5 月第 3 半旬の予察灯（畑・松阪市）では、誘殺数はチャバネアオカメムシ 2,164 頭（平年 214.6 頭）と多、ツヤアオカメムシ 277 頭（平年 34.2 頭）と多 （+）
- 2) 5 月上旬の予察灯（御浜町）では、誘殺数はチャバネアオカメムシ 6,503 頭（平年 264.7 頭）と多、ツヤアオカメムシ 13,705 頭（平年 1698.7 頭）と多 （+）
- 3) 巡回調査ほ場（カンキツほ場）では、叩き落とし虫数 3.5 頭（平年 0.2 頭）と多 （+）
- 4) 一般ほ場では、発生量は多 （+）
- 5) 現状の発生量は多と考えられ、引き続き発生量は多と予想されます。

(3) 防除対策

- 1) 降雨がなく気温の高い夜に飛来が多いので、夜間の街灯に注意したり、ほ場を見回るなどして、早期発見に努めてください。
- 2) 山林に近いほ場では特に注意が必要です。
- 3) 薬剤散布はカメムシ類の飛来を確認してから実施してください。
- 4) 夕刻から活発に飛翔するので朝夕の薬剤散布が効果的です。
- 5) 合成ピレスロイド系の薬剤を連続して散布すると、ハダニ類、カイガラムシ類の発生が多くなる傾向があるので注意してください。

チャ

1 炭疽病

- (1) 予報内容 発生量：平年並

(2) 予報の根拠

- 1) 巡回調査ほ場では、新葉発病葉数 0 葉/m²（平年 0.01 葉/m²）と平年並 （±）
- 2) 一般ほ場では、発生量は少 （-）
- 3) 1 か月予報によると、気温は高く、降水量は多い予想 （+）
- 4) 現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き発生量は平年並と予想されます。

(3) 防除対策

- 1) 気温が 25℃前後で降雨時間が長く湿潤であると多発します。
- 2) 6 月上中旬頃の気象によっては感染が助長されるので注意してください。
- 3) 旧葉に病斑葉が多いところでは注意してください。
- 4) 開葉初期に防除してください。

2 もち病

- (1) 予報内容 発生量：平年並

(2) 予報の根拠

- 1) 巡回調査ほ場では、新葉発病枚数 0 枚（平年 0 枚）と平年並 （±）
- 2) 1 か月予報によると、気温は高く、降水量は多い予想 （±）
- 3) 現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き発生量は平年並と予想されます。

(3) 防除対策

- 1) 気温が 15℃から 22℃で多発します。
- 2) 山間地など日陰になりやすいところでは、降雨により感染が多くなります。
- 3) 萌芽期が防除適期です。

3 カンザワハダニ

(1) 予報内容 発生量：やや少

(2) 予報の根拠

- 1) 巡回調査ほ場では、発生ほ場率 38.5%（平年 44.5%）とやや少、寄生葉率 2.2%（平年 5.0%）と少、寄生虫数 0.057 頭／葉（平年 0.21 頭／葉）とやや少 （－）
- 2) 県予察ほ（亀山市、4 月中旬から 5 月上旬）では、寄生葉率 0.67%（平年 5.6%）と少、寄生頭数 0.03 頭／葉（平年 0.9 頭／葉）と少 （－）
- 3) 一般ほ場では、発生量は少 （－）
- 4) 1 か月予報によると、気温は高く、降水量は多い予想 （＋）
- 5) 現状の発生量はやや少と考えられ、引き続き発生量はやや少と予想されます。

(3) 防除対策

- 1) 世代交代が早く、急増することがあるので、発生密度の低い時期に防除してください。
- 2) 葉裏に生息していますので丁寧に散布してください。
- 3) 天敵への影響の小さい薬剤を選択してください。
- 4) 薬剤抵抗性発達を回避するため、同一系統薬剤の連用を避けてください。

4 チャノホソガ

(1) 予報内容 発生量：やや少

(2) 予報の根拠

- 1) 巡回調査ほ場では、巻葉数 0.3 枚／㎡（平年 0.6 枚／㎡）とやや少 （－）
- 2) 県予察ほ（亀山市、4 月第 4 半旬から 5 月第 3 半旬）では、フェロモントラップ誘殺数 20.5 頭（平年 139.4 頭）で少 （－）
- 3) 一般ほ場では、発生量は少 （－）
- 4) 1 か月予報によると、気温は高く、降水量は多い予想 （＋）
- 5) 現状の発生量はやや少と考えられ、引き続き発生量はやや少と予想されます。

(3) 防除対策

- 1) 防除適期はふ化直後の潜葉期（幼虫による絵描き状態）です。
- 2) 成虫の飛来状況と新芽への産卵状況（水滴状の卵）に注意してください。
- 3) 成虫の飛来状況は、農業研究所茶業・花植木研究室のホームページを参考にしてください。

5 チャノミドリヒメヨコバイ

(1) 予報内容 発生量：平年並

(2) 予報の根拠

- 1) 巡回調査ほ場では、叩き落とし虫数 1.2 頭（平年 0.9 頭）と平年並の傾向 （±）

- 2) 県予察ほ（亀山市、4 月第 4 半旬から 5 月第 3 半旬）では、黄色粘着トラップ捕殺数 12.2 頭（平年 14.1 頭）と平年並の傾向（±）
- 3) 一般ほ場では、発生量は少（－）
- 4) 1 か月予報によると、気温は高く、降水量は多い予想（＋）
- 5) 現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き発生量は平年並と予想されます。

(3) 防除対策

- 1) 成虫で越冬し、新芽の伸長とともに発生が増加します。
- 2) 新芽を加害し、先端から褐変して落葉することもあります。
- 3) 二番茶の萌芽期から開葉初期に防除してください。

6 チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量：平年並

(2) 予報の根拠

- 1) 巡回調査ほ場では、叩き落とし虫数 0.39 頭（平年 0.24 頭）とやや多（＋）
- 2) 県予察ほ（亀山市、4 月第 4 半旬から 5 月第 3 半旬）では、黄色粘着トラップ捕殺数 271.0 頭（平年 197.3 頭）と平年並の傾向（±）
- 3) 一般ほ場では、発生量は少（－）
- 4) 1 か月予報によると、気温は高く、降水量は多い予想（＋）
- 5) 現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き発生量は平年並と予想されます。

(3) 防除対策

- 1) 成虫で越冬し、新芽の葉の組織内に産卵して加害しますので、二番茶の萌芽前から開葉初期に防除してください。

イチゴ

1 うどんこ病

(1) 予報内容 発生量：平年並

(2) 予報の根拠

- 1) 一般ほ場では、発生量は少からやや多（概して平年並）（±）
- 2) 1 か月予報によると、気温は高く、降水量は多い予想（±）
- 3) 現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き発生量は平年並と予想されます。

(3) 防除対策

- 1) ほ場をよく観察し早期発見に努め、発病葉は適切に処分してください。
- 2) 育苗ほで発生が多いと本ほでも多発するため、親株の時期から薬剤防除を徹底し、健全苗を育成してください。特にハウスで発生が多くなることがあるので注意して下さい。
- 3) 薬剤抵抗性発達を回避するため、同一系統薬剤の連用を避けてください。

2 炭疽病

(1) 予報内容 発生量：やや多

(2) 予報の根拠

1) 一般ほ場では、発生量は平年並 (±)

2) 1 か月予報によると、気温は高く、降水量は多い予想 (+)

3) 現状の発生量は平年並と考えられ、今後の気象状況を考慮して、発生量はやや多と予想されます。

(3) 防除対策

1) 高温・多湿条件で発生しやすいため、今後の梅雨・高温期にかけては注意が必要です。

2) 薬剤による予防防除を徹底してください。

3) 罹病株は感染源となります。見つけ次第速やかに除去し、ほ場外に持ち出して処分してください。

4) 水滴の跳ね返りによって病原菌が広がります。灌水時は、跳ね返った水滴が茎葉に当たらないよう注意してください。

ネギ

1 ネギコガ

(1) 予報内容 発生量：平年並

(2) 予報の根拠

1) 巡回調査ほ場では、被害葉率 0% (平年 0%) と平年並 (±)

2) 一般ほ場では、発生量は平年並 (±)

3) 1 か月予報によると、気温は高く、降水量は多い予想 (+)

4) 現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き発生量は平年並と予想されます。

(3) 防除対策

1) 春から秋にかけて 4 回から 5 回発生します。

2) 幼虫が葉の内部に潜り、表皮を残して食害するため、潜入防止のための早期防除が重要です。

野菜共通

1 コナガ

(1) 予報内容 発生量：やや多

(2) 予報の根拠

1) 県予察ほフェロモントラップ (松阪市、4 月第 4 半旬から 5 月第 3 半旬) では、誘殺数 58 頭 (平年 26.1 頭) と多 (+)

2) 一般ほ場では、発生量は平年並 (±)

3) 1 か月予報によると、気温は高く、降水量は多い予想 (+)

4) 現状の発生量は平年並と考えられ、フェロモントラップの誘殺数を考慮して、発生量はやや多と予想されます。

(3) 防除対策

1) 中・老齢幼虫は殺虫効果が低くなるので、若齢のうちに防除してください。

2) 薬剤抵抗性発達を回避するため、同一系統薬剤の連用を避けてください。

Ⅲ 気象予報

東海地方 1 か月予報（令和 8 年 5 月 21 日 名古屋地方気象台発表）

暖かい空気に覆われやすいため向こう 1 か月の気温は高く、期間の前半はかなり高くなる見込みです。前線や湿った空気の影響を受けやすいため、向こう 1 か月の降水量は多く、日照時間は平年並か少ないでしょう。

期間の前半は、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

1 週目 5 月 23 日～29 日	天気は数日の周期で変わりますが、前線や湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。
2 週目 5 月 30 日～6 月 5 日	天気は数日の周期で変わるでしょう。
3～4 週目 6 月 6 日～6 月 19 日	平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

Ⅳ その他

- ・本冊子の見方を説明した「病虫害発生予報利用の手引き」があります。下記のアドレスからお入りください。

<https://www.pref.mie.lg.jp/common/content/001252991.pdf>

- ・予報、警報、注意報、特殊報、技術情報が発表されたときに、ホームページに掲載されたという「掲載通知」を電子メールでお知らせしています。このメールの配信を希望される方は、下記のアドレスからお申し込みください。

<https://www.pref.mie.lg.jp/byogai/hp/39475007379.htm>